

令和3年度 高千穂町立上野小学校・上野中学校 学校関係者評価書 [4段階評価] 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

	重点項目	評価指標及び方策と手立て		自己評価	評価委員 評 価	学校関係者評価委員の意見
学 び づ く り	確かな学力の 育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種学力検査等の結果を分析し、「分かる・できる」授業を展開する。 ○ 体験的な学習や問題解決的な学習を推進する。 ○ 授業改善のチェックポイントを意識した「相互参観授業」を実施する。 ○ 児童生徒の日常的な言語活動の充実を図る。 ○ 保護者及び児童生徒による授業評価を実施する。 ○ 立腰教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査及びみやぎ学習状況調査、N R Tの結果を分析し、誤答の傾向を捉え、授業改善に生かした。当該学年では、再度問題に挑戦し、理解を深めた。 ○ 昼休みや放課後などに補充学習を行い、生徒の学力定着に向けた取組を行うことができた。 ○ 地域の力を借りて体験的な学習を進めることができた。その中で課題を見つけ、探究的な取組ができた。次年度は体験だけではなく「なぜやるのか」課題を明確にし、小中の9年間を見通した体系的な取組にしていきたい。 ○ I C Tの活用に特化した授業参観を行い、「4つのチェックポイント」を意識した授業づくりもできていた。 ○ 日常的に小学生は中学生と生活を共にする中で、中学生の話し方がよい手本になっている。放送で新聞記事を紹介したり相互読み聞かせて他の学年の前で発表したりする活動も効果的であった。 ○ 児童生徒による授業評価を2学期（12月）に行い、次年度に向けた課題が明確になった。 ○ 授業の始めと終わりや、授業中の説明の際に立腰を意識させた。 	3.0		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上対策については、さまざまな工夫をして子どもたちに寄り添っていただいているので、進路を考えた指導を続けてほしい。 ○ 本年度実施することができた小学校の「ふれあい教室」は、令和4年度も実施してほしい。コロナの状況次第だが、なるべく早く計画を進めてほしい。 ○ 家庭学習の取組については、アンケートの結果を踏まえて、家庭に対して、家庭学習の取組の啓発を行ってほしい。 ○ 児童生徒の通信機器の取扱いについては、郡PTA連絡協議会でも家庭に協力を求めて、親子で通信機器の取扱いについてより良い方向を求めていく。このことを学校も支援してもらいたい。
	I C Tを活用した授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一台タブレットを活用した授業実践と一人一台タブレットを活用した「相互授業参観」を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ G I G Aスクール構想に伴い、一人一台タブレットを活用した授業実践と一人一台タブレットを活用した「相互授業参観」を実施した。また、デジタル教科書の利用も進めた。 	3.1		
	家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家庭学習の心得」や「家庭学習の手引き」を活用し、保護者の意識高揚を図る。 ○ 「学習コンクール」の実施と結果や家庭での取組の紹介による保護者の家庭学習への啓発を図る。 ○ 児童生徒の学力に応じた課題と復習を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の心得と手引きについて年度初めに配付し、家庭訪問や参観日をおして保護者の意識高揚を図った。次年度は学期末など定期的に抜粋したものを配付するなどして保護者の意識をさらに高めていきたい。 ○ 「学習コンクール」を実施し、結果を家庭へ報告し、保護者の家庭学習への啓発を図った。 ○ 保護者と連携を図り、放課後等を使って児童生徒の学力に応じた指導を行った。 	2.8	3.0	
	読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のボランティアによる小学生への読み聞かせを年7回実施する。 ○ 小学生による相互読み聞かせを年5回実施する。 ○ 読書アンケートを実施し、児童生徒が読みたい本を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校では「おはなしの森」によるボランティア協力で計画的に読み聞かせやおはなし会を実施していただき、読書への関心が高まった（新型コロナウイルス感染症の急拡大を受け、今年度は6回実施）。 ○ 新型コロナウイルス感染症の急拡大を受け延期している学年もあるが、年間5回実施する見通しである。全体としては異年齢集団の交流の場として、担当する児童にとっては学校図書館で多くの絵本を読んだり人前で表現したりするよい機会となっている。 ○ 小中ともに読書アンケートを実施し、児童生徒が読みたい本を増やす活動を行い、支援員が図書館の環境整備、しおり作成、本の修復等を行い、読書活動の推進を図った。 	2.9		
	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域人材を活用した「ふれあい教室」を実施する ○ 「上野ハローワーク教室」を実施する。 ○ 系統的な進路学習や職場体験学習、立志の集い等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症拡大のため、日程の変更や延期、世話人会の中止などがあったが、予防対策を講じて、世話人会の方と学校職員で創意工夫して実施することができた（小学校）。 ○ 児童のアンケートをもとに町内を始め県内の様々な職種の方をお招きし、児童に貴重な話をいただいた。仕事に対する興味・関心の高まりを感じるような感想を児童から聞くことができた（小学校）。 ○ 町内の事業所の協力により、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら職場体験学習を実施することができた（中学校）。 ○ 各学年に必要なとされるキャリア教育を計画的に配置し、外部講師や地域人材の活用も教育的効果を上げる一因になった。地域の方々に講師として協力をいただいている。 ○ 保護者アンケートにおいて、将来の夢や希望について家庭で話す項目が低かったので、学級通信や学校だより等で情報提供を行い啓発する。 	3.1		
	英語・外国語活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ A L Tを活用し、「英語を使って何ができるようになるか」を意識した授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ A L Tを活用し、「英語を使って何ができるようになるか」を意識した授業を実践した。児童生徒の体験的な授業展開ができていた。またデジタル教科書の活用も推進できた。 ○ A L Tが上野地区在住ということもあり、児童生徒が英語・外国語の授業に肩の力を抜いて取り組んでいる。また、地区中学校英語暗唱・弁論大会に3名出場し1名が優秀賞を受賞した。 	3.1		

令和3年度 高千穂町立上野小学校・上野中学校 学校関係者評価書 [4段階評価] 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

	重点項目	評価指標及び方策と手立て	自己評価		評価委員 評 価	学校関係者評価委員の意見		
心 づ く り	生徒指導の充 実	○ 児童会、生徒会を構築し、リーダーの育成を図る	○ 小中別の各委員会活動を通してリーダー育成ができた。小6は中学校の生徒会役員選挙に参加し、生徒会の意義を感じることができた。児童生徒は自主性をもってよく取り組んでいる。	3.2	3.1	3.0	○ 児童生徒は地域の方にもよくあいさつを行っている。これは、先生方の指導のおかげだと考える。職員の保護者へのあいさつも積極的に行ってほしい。	
		○ 「上野流あいさつ」を徹底させる。	○ 登下校、校内でのあいさつはよくできている。「あいさつ運動」の看板や幟旗を設置している。				○ いじめアンケートについては、現状の月1回の体制を続けて、児童生徒の様子を見守ってほしい。	
		○ 「上野流清掃の心得」を清掃前に放送で聞き、無言清掃の質を高める。	○ 生活委員会の活動として、朝のあいさつ運動を定期的に実施した。				○ 不登校生については、スクールカウンセラーの活用をもっと増やしてほしい。本人だけでなく、家庭も含めて家族全体でスクールカウンセラーの面談を受けることができるような体制を考えてほしい。	
		○ 「こころの委員会」を毎月実施し、配慮や支援が必要な児童生徒の情報を共有し、指導方針の検討を行うなど組織として対応する。	○ 「こころの委員会」を毎月実施し、情報交換や今後の対応の計画を練り、チームで対策を行うようにしている。次年度は学期1回、小・中の生徒指導主事と特別支援教育担当もそれぞれの心の委員会に出席し、情報の共有を図っていく。				○ お米学習は、コロナ禍が落ち着いたら、炊飯までできるとよい。	
	教育相談の充 実	○ 児童生徒に相談窓口を周知し、学期1回の教育相談を実施する。	○ 「教職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」が令和3年6月4日に公布されたことを受けて、「セクハラ相談窓口」を集会や毎月1回実施している「いじめアンケート」で児童生徒に改めて周知した。	3.1				
		○ いじめアンケートを毎月1回実施する。	○ いじめアンケートを毎月、教育相談を毎学期それぞれ実施し、児童生徒の悩みや困り感の解消に早急に対処した。					
		○ 「こころの委員会」でいじめアンケートの結果を分析・検討し、不登校やいじめの防止に積極的に努める。	○ 「こころの委員会」を毎月実施し、職員間の情報交換を行い、保護者と連携して不登校やいじめの防止に努めている。					
	豊かな心を育 む教育の充実	○ 「お芋学習」「お米学習」などの地域との連携学習や「棒術」「人形浄瑠璃」「上野白太鼓踊り」「神楽」などのふるさと学習を通して地域のよさを発信する。	○ 地域の協力で体験活動（芋・米作り・ふれあい教室）や講話（上野ハローワーク・職場訪問、立志のつどい）など児童生徒に充実した教育活動が提供できた。これらの行事はホームページや新聞、町広報、テレビ放映等で紹介できた。	3.1				
		○ 沖縄県豊見城村との交流学习を実施し、「エイサー」を通して地域との交流を図る。	○ 棒術、神楽、白太鼓の継承については、保存会による指導の成果を学校行事（小中合同運動会や文化祭）で発表した。地域に生きる児童生徒にとって自信や誇りにつながっている。					
		○ 地域の方に小学校の植栽ボランティアをしていただき、花を育てることを通して豊かな心の教育の充実を図った。						
		○ 沖縄県豊見城村との交流学习は新型コロナウイルス感染症予防対策のため実施できなかった。6年生は、小中合同運動会の他に「鬼八の蔵収穫祭」でエイサーを披露し、地域に貢献した。						

○ 児童生徒は地域の方にもよくあいさつを行っている。これは、先生方の指導のおかげだと考える。職員の保護者へのあいさつも積極的に行ってほしい。

○ いじめアンケートについては、現状の月1回の体制を続けて、児童生徒の様子を見守ってほしい。

○ 不登校生については、スクールカウンセラーの活用場面をもっと増やしてほしい。本人だけでなく、家庭も含めて家族全体でスクールカウンセラーの面談を受けることができるような体制を考えてほしい。

○ お米学習は、コロナ禍が落ち着いたら、炊飯までできるとよい。

令和3年度 高千穂町立上野小学校・上野中学校 学校関係者評価書 [4段階評価] 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

	重点項目	評価指標及び方策と手立て		自己評価		評価委員 評 価	学校関係者評価委員の意見		
体 づ く り	体力向上の推進	○ 体力向上プランを作成し、体育や保健体育の授業を中心に活用し、児童生徒の体力向上を図る。	○ 体力テストの経年変化から本校の児童生徒の課題を明確にし、その改善のためにバトンスローや握力グリップの設置をするなど体育主任を中心に工夫して取り組んだ。	3.0	3.0	3.0	○ 体力づくりに関しては、全体的に指導していただいている。 ○ 給食について、中学校の食べる時間が短い。「おいしい給食を味わって食べてほしい」と思うので、準備、配膳を早くできるように指導してほしい。また食べる時間は個人差もあるので指導方法を考えてほしい。		
		○ 上野流「朝のトレーニング・ストレッチ」を実践し、体幹を鍛える。	○ 学級担任、保体委員を中心に、朝の時間や昼休みの活動により実践している。						
		○ 小中合同運動会や体育的行事の充実を図る。	○ 新型コロナウイルス感染症予防対策や時間短縮などを講じながら、保護者の理解・協力により小中合同運動会を実施することができた。また事前の練習を充実させ、長距離走大会を実施することができた。						
		○ 外遊びを奨励し、自力登校を推進する。	○ 昨年よりも昼休みの外遊びが増えた。朝の登校時間変更に伴い、自力登校を推進できた。						
	健康・安全教育の充実	○ 交通教室や避難訓練を実施し、自ら危険を回避する能力を育成する。	○ 避難訓練（不審者・地震・火災）を実施し、命を守る行動の大切さと具体的な行動について指導した。また火災を想定した避難訓練では煙体験も行った。小学校では登校班集会を実施して交通安全指導を行った。	3.1					
		○ 安全点検を月1回実施する。	○ 安全点検を毎月実施し、危険箇所や修理が必要な場所については、町教委や西臼杵支庁土木課に連絡し改善をお願いしている。 ○ 来年度は、風水害等の有事に備えた「引渡し訓練」を実施する予定である。						
	食育に関する指導の充実	○ 児童生徒が自分で作る「みやざき弁当の日」を実施する。	○ 養護教諭、学校栄養教諭による食に関する教育を実施した。「お弁当の日」を3月に予定し、発達段階に応じた弁当づくりをそれぞれ行うこととしている。 ○ 高千穂中学栄養教諭による食育に関する授業を行った。	2.8					
		○ 食育の年間計画を実施する。	○ 食に関する様々な知識を給食時間の放送で紹介した。						
信 頼 さ れ る 学 校 づ く り	働き方改革の推進	○ ワーク・ライフバランスのとれた生活を実践する。	○ 今年度、児童生徒の登校時間を変更し職員の出勤時間に余裕をもたせた。保護者の理解・協力により、これまでどおりの教育活動を実施することができた。 ○ 水曜日の「リフレッシュデー」に伴う中学校の部活動休みや夏休みの「学校閉庁期間」の徹底が図られた。 ○ 留守番電話の設置により、勤務時間外の電話対応が改善された。	3.1	3.2	4.0	○ 職員の働き方改革は、順調に進められているが、勤務時間にメリハリをつけて職務に励んでほしい。 ○ ホームページの毎日の更新は、児童生徒の学校での様子が分かり、家庭で子どもとの会話に生かせるのでありがたい。		
		開かれた学校づくり	○ 学級通信や学校だより、ホームページ等で情報を保護者、地域に発信する。					○ 学校のホームページを毎日更新し、保護者をはじめ多くの方々に学校の情報を発信し、閲覧していただいている（1日あたり300人程度の閲覧）。	3.3
			○ 参観日やPTA総会等を通して、保護者や地域の意見を積極的に学校運営に取り入れる。 ○ 学校図書館を地域に開放する。					○ 学校だより「みつやま」及びPTA新聞「みっとぎり」を定期的に発行し、地域回覧板で学校の情報を発信できた。また、学級担任の作成する学級通信を通して保護者に子どもたちの様子を詳細に伝えることができた。 ○ 学校図書館を地域に開放している（定期的な利用者1名）。	
	学校評価の充実	○ 学校評価に係る学校関係者評価委員会を年2回実施する。	○ 学校関係者評価委員会を年2回実施し、委員会の協議内容（学校関係者評価書）はホームページ等で公表し、報告する。	3.2					
		○ 教育活動に係る保護者アンケートを実施する。	○ 教育活動に係る保護者アンケートを2学期（12月）に実施し、分析を行い、学校運営に生かしていく。アンケートの結果は学校だよりやホームページで公表し、報告する。 ○ 「家庭での読書の取組」の項目が低かったので、読書のよさや啓発を学校だよりや家庭教育学級等とおして行っていく。 ○ 将来の夢や希望について家庭で話す項目が低かったので、保護者に生き方や職業、進学などキャリア教育に関する情報を保護者に提供し、啓発する。						